

第二十回武蔵御嶽神社

新年奉納俳句入選作品

奉納式 平成五年二月十一日
選者 来住野臥丘

- 特選
一席 神杉を抜けし陽を享く冬苺 青梅市川 賢
二席 猿酒を恐る恐るに酔いにけり 秋川大野 絢子
三席 三代の御師にまみえて去年今年 入間滝沢スエ子
四席 宿坊の寒はりつきし白障子 青梅萩原 芙沙
五席 枝引けば雪の喝采みくじ結う 横濱響松木 紫水

- 秀逸
一席 初日待つ秒よみの胸しずめつつ 羽村横手タマエ
二席 二十年の断片きゅんと鼻返つる 青梅野村 春子
三席 初日出る幾重の峰なす果 練馬鈴木 啓子
四席 大樺母のごとまた鶴来る 日野野口 静
五席 鳥居から社が遠く初詣 青梅原島 康典
六席 穏やかに寒に入りたる神の山 福生鈴木 順子
七席 三十三才句碑のほとりに見失う 青梅田中 郷路
八席 槌音の木霊返しに宮の春 入間増岡 蛭雪
九席 宿坊の子とすれ違い冬の山 八王子郡司スエ子
十席 玉だすききりりと包丁始めかな 青梅榎戸 由造

選者詠

冬ざくら戻りは知らぬ間に過ぎし
御岳より風吹きおろすふかし諸

四年式年大祭 記念事業報告

武蔵御嶽神社では、十二年に一度の、四年式年大祭の記念事業として、神楽伝修殿の建設を中心とする事業を行った。

当神社の神楽は、太々神楽と呼ばれ、講中・崇敬者の方々の最も格式の高い参拝の儀式として、江戸時代から伝承されているもので、昭和三十二年、東京都無形民俗文化財に指定されている。

今までは、幣殿で舞われていたが、神楽奏上の間、他の参拝者が、拝殿に昇殿出来ない等の問題があつて、神楽伝修殿の建設は永年の懸案であり、願ひであつた。

この事業には、東京都及び青梅市からの補助も賜り、ご講中の方々に、寄付をお願いする一方、地元青梅市を始めとする地域では、青梅商工会議所会頭、山崎正雄氏を委員長とする、神楽伝修殿建設委員会が組織され、総計二億円余の寄付をいただいた。

平成二年九月起工式を執行、

神符授与所の曳家工事から着工、足かけ四年の歳月を費やして、平成五年三月、竣工の運びとなつた。

神楽伝修殿の建設にあわせて、拝殿の漆塗り工事、随神門のベシガラ塗り工事、石の間覆舎工事、社務所改修工事、石段工事等が行なわれた。工事の収支決算は概ね次の通りですので御報告申し上げます。

収入の部
補助金総計 二二、四三〇万円
寄付金総額 二一、〇九〇万円
神社・社家支出金 九、一六〇万円
利子他 一、四五〇万円
収入総計 五五、一三〇万円

支出の部
神楽伝修殿新築工事費 三〇、五〇五万円
拝殿漆工事 一三、〇九八万円
事務所、社務所工事 二、二九五万円
石の間覆舎工事 二、四一〇万円
随神門ベシガラ工事 一、五〇〇万円
石段工事 五〇〇万円
記念品代 二、九〇〇万円
諸経費 一、九二二万円
支出総計 五五、一三〇万円

社の神

ケーブルカーを降りて百メートル程歩き、赤い鳥居をくぐると谷を挟んで御岳山が望める。山裾には御師の家々が参道に沿って立ち並び山頂には武蔵御嶽神社の社殿が木立の中に立っている。

此処から山全体を見ると、山頂と東側の斜面はスギやヒノキの植林された人工林であり、西側は針葉樹と広葉樹で構成された自然林である。両者は尾根または谷ではつきり区別されてはいる。スギやヒノキの大き木に囲まれた社殿は荘厳な雰囲気を感じ、自然林の社は四季折々その姿を替え参拝者の目を和ませてくれる。

随神門より社殿に向かう参道の両側には樹齢四百年を超



で充分な手入れをしても後五十年はかかるだろう。西側の自然林の方であるが、こちらは当時の台風の影響を受けておらず昔のままの姿をとどめている。

この森を構成している樹木は、モミ・ツガの針葉樹とブナ科・カエデ科等の広葉樹である。特に直径一メートルを優に超えるミズナラやブナの木が多いことには驚かされる。これらの大木に混じり、

木々の芽吹とともに咲くヤマザクラ、初夏に大輪の白い花を付けるホオノキやクリーム色で穂状の花を咲かせるトチも目立つ。大木の陰には、秋に赤く色づくハウチワカエ

デ・メグスリノキ・オオモミジ等カエデの仲間が生えており、さらにその下にはクロモジ・アブラチャン・ツツジなどの低木が細々と生えている。林床は笹やミヤマシキミに覆われていて、杜の中の間々には寿命を全うしたと思われる木が倒れ朽ち果ており、ぽっかりと開いたその空間にミズナラ等の若木が空を目指して競って生えている。

このように御嶽神社の杜は人工林と自然林と言う二種類の杜を持っている。どちらも私達にとって、また野性動物にとっても大切な杜である。

